An Outline of the 10th Anniversary International Symposium of the Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/36990

日本海域研究，第45号，1-2ページ，2014
JAPAN SEA RESEARCH, vol.45, p.1-2, 2014

環日本海域環境研究センター設立10周年記念 国際シンポジウムの概要

早川和一[1]・塚脇真二[2,3*]

2013年12月28日受理，Accepted 28 December 2013

An Outline of the 10th Anniversary International Symposium of the Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University

Kazuichi HAYAKAWA[1] and Shinji TSUKAWAKI[2,3*]

Abstract

The Institute of Nature and Environmental Technology was established in April 2002 as a central research institute for the study of environmental science and technology at Kanazawa University. In April 2007, the institute was reorganised into three departments and eight divisions. The Japan Sea Research Institute of the university, which had been a centre of regional studies in the area of the Sea of Japan since 1967, has become a department of the institute.

As an event to commemorate the 10th anniversary of the establishment of the institute, an international symposium was held in Kanazawa on the 13th of December 2012. Research activities and their results within each department and division during the last 10 years were presented and discussed at the symposium.

Key Words: Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University, Sea of Japan, East Asia, Environmental Science
キーワード：環日本海域環境研究センター，金沢大学，日本海，東アジア，環境科学

環日本海域環境研究センターはその前身となる自然計測応用研究センターの時代を含めると2012年をもって設立11年になる。自然計測応用研究センターは，「低レベル放射能実験施設」，「電磁場制御実験施設」，「臨海実験所」ならびに「植物園」の4施設を配置・転換するとともに環境科学分野での実績のある理学部・工学部の研究者を新たに加え，自然環境科学と環境工学という理工融合の教育研究施設として2002年4月に設立された。その後の本学における学域再編によって理工学域が誕生したことを考えると，自然計測応用センターはその先駆けであったとも言うことができよう。

[1]金沢大学環日本海域環境研究センター センター長 〒920-1192 石川県金沢市角間町（Director, Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University, Kakuma-machi, Kanazawa, 920-1192 Japan）
[2]金沢大学環日本海域環境研究センター 自然計測領域エコテクノロジー研究部門 〒920-1192 石川県金沢市角間町（Division of Eco-Technology, Department of Natural Science and Measurement, Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University, Kakuma-machi, Kanazawa, 920-1192 Japan）
[3]環日本海域環境研究センター設立10周年記念国際シンポジウム実行委員長（Chairperson, the 10th Anniversary International Symposium of the Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University）
[*]連絡著者（Author for correspondence）

その後，金沢大学における文部科学省21世紀COEプログラム「環日本海域の環境変動と長期・短期の環境変動予測」の研究活動にあたっては自然計測応用研究センターがその中心的役割を担った。この実績をふまえ，また，金沢大学が環日本海域の環境研究をいっそう強力に推進するために，長年にわたる地域研究の実績をほこる本学「日本海域研究所」との統合のもとに，同センターは2007年4月に3領域8研究部門からなるあらたな研究組織「環日本海域環境研究センター」として再編された（表1，2）。この再編によって当センターは，自然環境の解析や環境工学における最先端の調査研究能力に加え，環日本海域という地域に特化した環境課題に対処できる機能をあわせもつ存在になった。

自然計測応用研究センターの設立から10年がすでに経過したことを記念し，標記国際シンポジウムを金沢大学自然科学研究科棟で2012年12月13日に開催した（図1）。このシンポジウムの第一部では，この10年間に当センターの各領域・部門にて得られた研究成果の概要が各領域・部門の紹介とあわせ報告された。つづく第二部では，東アジアの中核地域といえる環日本海域における環境研究の展開という観点から，当センターが東アジアにおける知の拠点のひとつとして今後その機能をさらに充実させ発展させるために，各領域・部門で推進されている先端研究や先端技術が紹介された。そして第三部では，当センターの今後の発展にむけての活発な議論がなされた。

日本海域研究第45号の発刊にあたり，特集として当シンポジウムの第一部「環日本海域環境研究センターの10年」ならびに第二部「これからの環日本海域環境研究センター」の講演の概要をここに掲載し，シンポジウムの内容を公表するとともに当センターの今後の発展に向けての資料としたい。

表1　環日本海域環境研究センターの成立と経過.

Table 1　Establishment and history of the Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University.

1949年5月	理学部附属植物園設立（旧城内キャンパス）
1958年4月	理学部附属能登臨海実験所設立
1967年7月	金沢大学日本海域研究所設立（2007年3月まで）
1975年4月	理学部附属低レベル放射能実験施設設立（2002年3月まで）
1982年4月	工学部附属電気エネルギー変換実験施設設立（1992年3月まで）
1992年4月	工学部附属電磁場制御実験施設設立（2002年3月まで）
1993年4月	理学部附属臨海実験所と名称変更（2002年3月まで）
1995年6月	理学部附属植物園を角間キャンパスに移転
2002年4月	金沢大学自然計測応用研究センター設立
2007年4月	金沢大学環日本海域環境研究センターに改組

図1　2012年12月13日に開催された環日本海域環境研究センター設立10周年記念国際シンポジウム（金沢大学自然科学研究科）.

Fig. 1　The 10th Anniversary International Symposium of the Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University held on the 13th of December 2012.

表2　環日本海域環境研究センターの領域・研究部門構成.

Table 2　Departments and divisions of the Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University.

環日本海域環境研究センター（Institute of Nature and Environmental Technology）
- 自然計測領域（Department of Natural Science and Measurement）
  - 地球環境計測研究部門（Division of Earth Dynamics）
  - エコテクノロジー研究部門（Division of Eco-Technology）
  - 生物多様性研究部門（Division of Biodiversity）
  - 生体機能計測研究部門（Division of Biological Measurement and Application）
- 環境情報領域（Department of Environmental Information）
  - 自然環境情報研究部門（Division of Natural Environmental Information）
  - 人間環境情報研究部門（Division of Human Environmental Information）
- 地域研究領域（Department of Regional Studies）
  - 環境・防災研究部門（Division of Environment and Disaster Prevention）
  - 人文・社会研究部門（Division of Human and Social Sciences）